

文化人類学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時
文化人類学概論	アメリカ人類学における文化進化主義（1）	2	沼崎 一郎	3	水	2
文化人類学概論	アメリカ人類学における文化進化主義（2）	2	沼崎 一郎	4	水	2
文化人類学基礎講読	香港―「政治に無関心な都市」の政治	2	金丸美美	3	火	2
文化人類学基礎講読	文化人類学基礎講読	2	リーペレスファビオ	4	火	2
文化人類学基礎演習	専門文献読解 1	2	越智 郁乃	3	月	4
文化人類学基礎演習	文化人類学の視野と思考	2	川口 幸大	4	月	4
文化人類学各論	法人類学	2	石田慎一郎	集中（5）		
文化人類学各論	中東イスラーム人類学	2	嶺崎寛子	集中（5）		
文化人類学各論	災害人類学	2	ボレー・ペンメレン・セバスチャン	6	金	3
文化人類学演習	比較文化研究法	2	越智 郁乃	5	火	3
文化人類学演習	文化人類学研究計画法	2	沼崎 一郎	6	火	3
文化人類学演習	英語古典原書講読	2	沼崎 一郎	6	木	2
文化人類学実習	フィールドワーク実習	2	川口 幸大 越智 郁乃	5	水	3・4
文化人類学実習	フィールドワーク実習	2	川口 幸大 越智 郁乃	6	水	3・4

科目名：文化人類学概論／ Cultural Anthropology (General Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：沼崎 一郎（教授）

講義コード：LB33205, 科目ナンバリング：LHM-CUA201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：アメリカ人類学における文化進化主義（1）

2. Course Title (授業題目) : Cultural Evolutionism in American Anthropology (1)

3. 授業の目的と概要：

アメリカ人類学の中心的な思想のひとつである文化進化主義について、その歴史的な変遷を丁寧にたどることで、文化人類学の歴史に触れ、学問と社会の関わりについて考えることを目的とする。今セメスターは、ルイス・ヘンリー・モルガン、レズリー・ホワイト、ジュリアン・スチュワード、エルマン・サーヴィスを中心に、19 世紀から 20 世紀中葉までの流れを概観する。

重要な人類学者の代表的な著作を取り上げ、そのテキストを精密に解釈するという作業を通して、重要な概念の成立と変容を学説史的にたどり、その概念を深く理解するという、人文社会科学を学ぶ上で最も大切な学問的態度とはどのようなものかを味わってほしい。

また、メモを取りながら講義を聞き、個人で復習しながら、あるいは友人たちと議論しながら、精密な講義ノートを作成するという体験を通して、講義を通した学びの方法というものを身に付けてほしい。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

Focusing on Lewis Henry Morgan, Leslie White, Julian Steward and Elman Service, this lecture examines the intellectual history of cultural evolutionism in American Anthropology from 19th to mid 20th century. Students will learn how to conduct careful textual analysis and how to create detailed lecture notes.

5. 学習の到達目標：

- (1) 学説的に概念を学ぶという、人文社会科学の基本的な学問的態度を身に付ける
- (2) 講義メモの取り方と講義ノートの作り方を習得する
- (3) 論述試験に慣れる

6. Learning Goals (学修の到達目標)

- (1) Acquire a basic academic attitude necessary in the Faculty of Arts
- (2) Learn how to take memos in class and how to turn them into detailed lecture notes
- (3) Become familiar with written examination

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入 授業方法の説明
2. 背景 1 18～19 世紀の文明思想
3. 背景 2 19～20 世紀の進化思想
4. 背景 3 19～20 世紀の世界
5. モルガン：『人類家族における血族と姻族の体系』における親族の進化論
6. モルガン：『古代社会』における文明思想と進化思想
7. ホワイト：『文化の科学』および『文化の進化』における文化観、文明観と進化思想
8. ホワイト：『現代資本主義文化』における資本主義論
9. スチュワード：『文化変化の理論』における文化観、文明観と進化思想
10. スチュワード：『伝統社会における現代的变化』における近代化論
11. サーヴィス：『未開社会組織』、『文化進化論』における文化観と進化思想
12. サーヴィス：『国歌と文明の起源』における文明観と進化思想
13. まとめ：古典的文化進化論から新文化進化論へ
14. まとめ：20 世紀の世界史とアメリカ人類学の文化進化論
15. 総括と学期末試験

8. 成績評価方法：

講義ノート提出（50%）

論述試験（50%）

9. 教科書および参考書：

弓削尚子『啓蒙の世紀と文明観』世界史リブレット

江上生子『ダーウィン』清水書院

10. 授業時間外学習：

- (1) 教科書を通読し、本講義の背景についての概略的な知識を得る
- (2) 個人で、または友人と協力して、精密な講義ノートを作成する

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：授業中に、電子辞書、ノート PC (タブレット) 等を利用することを推奨する。講義予定は、諸般の事情により変更することもありうる。

科目名：文化人類学概論／ Cultural Anthropology (General Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：沼崎 一郎（教授）

講義コード：LB43203, 科目ナンバリング：LHM-CUA201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：アメリカ人類学における文化進化主義 (2)

2. Course Title (授業題目) : Cultural Evolutionism in American Anthropology (2)

3. 授業の目的と概要：

前期に引き続き、アメリカ人類学の中心的な思想のひとつである文化進化主義について、その歴史的な変遷を丁寧にたどることで、文化人類学の歴史に触れ、学問と社会の関わりについて考えることを目的とする。今セメスターは、エリック・ウルフを中心に、20 世紀中葉から後半への流れを概観する。

重要な人類学者の代表的な著作を取り上げ、そのテキストを精密に解釈するという作業を通して、重要な概念の成立と変容を学説史的にたどり、その概念を深く理解するという、人文社会科学を学ぶ上でもっとも大切な学問的態度とはどのようなものかを味わってほしい。

また、メモを取りながら講義を聞き、個人で復習しながら、あるいは友人たちと議論しながら、精密な講義ノートを作成するという体験を通して、講義を通した学びの方法というものを身に付けてほしい。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

Focusing on Eric Wolf, this lecture examines the intellectual history of cultural evolutionism in American Anthropology from mid to late 20th century. Students will learn how to conduct careful textual analysis and how to create detailed lecture notes.

5. 学習の到達目標：

- (1) 学説的に概念を学ぶという、人文社会科学の基本的な学問的態度を身に付ける
- (2) 講義メモの取り方と講義ノートの作り方を習得する
- (3) 論述試験に慣れる

6. Learning Goals (学修の到達目標)

- (1) Acquire a basic academic attitude necessary in the Faculty of Arts
- (2) Learn how to take memos in class and how to turn them into detailed lecture notes
- (3) Become familiar with written examination

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入 授業方法の説明
2. 背景 1：第 2 次世界大戦後の世界構造
3. 背景 2：第 2 次世界大戦後のアメリカ人類学
4. 背景 3：マルクス主義とアメリカ人類学
5. エリック・ウルフ：人と業績
6. 農民研究 1：『揺れる大地の息子たち』
7. 農民研究 2：『20 世紀の農民戦争』
8. エリック・ウルフの文化論：『人類学』
9. 人類学的政治経済学 1：『ヨーロッパと歴史無き人々』
10. 人類学的政治経済学 2：『ヨーロッパと歴史無き人々』(続)
11. 文化と権力 1：『権力を想像する』
12. 文化と権力 2：『権力の通路』
13. エリック・ウルフとシドニー・ミンツ
14. まとめ：エリック・ウルフの人類学
15. 総括と学期末試験

8. 成績評価方法：

講義ノート提出 (50%)

論述試験 (50%)

9. 教科書および参考書：

川北稔『砂糖の世界史』岩波ジュニア新書

川北稔『世界システム論講義』ちくま学芸文庫

10. 授業時間外学習：

- (1) 教科書を通読し、本講義の背景となるアメリカ史についての概略的な知識を得る
- (2) 個人で、または友人と協力して、精密な講義ノートを作成する

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：授業中に、電子辞書、ノート PC (タブレット) 等を利用することを推奨する。講義予定は、諸般の事情により変更することもありうる。

科目名：文化人類学基礎講読／ Cultural Anthropology (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 火曜日 2講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：金丸英美（非常勤講師）

講義コード：LB32208, 科目ナンバリング：LHM-CUA202J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：香港—「政治に無関心な都市」の政治

2. Course Title (授業題目) : Defining Politics in an 'Apolitical City' : An Ethnographic Study of Hong Kong

3. 授業の目的と概要：

香港は、'Apolitical City'（政治に無関心な都市）であり、イギリス植民地時代から、政治的関与を犠牲にして社会経済的安定を優先する都市と言われてきた。香港の若者活動家は、何十万人が街頭でデモを行うなどの抗議活動は政治的ではないと主張している。講読する論文は、街の路上で見られる抗議行動と、これらの若者たちの行動と主張の間のこの矛盾を人類学的に理解しようとするものである。

この論文の精読を通して、英文読解力の向上を目指す。

受講生は、テキストを毎回3ページ程度予習して授業に臨み、順番に訳文を発表する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

Hong Kong is said to be 'Apolitical City' since the British colonial era. Yet, many young activists take to the street and demonstrate in recent years and they say their actions are not political. The article to be used in this course tries to understand this apparent contradiction between the action and the discourse of young Hong Kong activists.

This course aims at improving the reading skills of students.

Students are required to prepare about three-page long translations and present their translations in class.

5. 学習の到達目標：

- (1) 英文読解力を養う。
- (2) 香港の民族誌的事例から人類学的見方を学ぶ。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

1. Improve reading skills in academic English
2. Understand the anthropological perspective from a case in Hong Kong

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入 授業方法の説明
2. Abstract .
3. Introduction
4. Unravelling 'the Political' in Hong Kong
5. Unravelling 'the Political' in Hong Kong
6. Origins of Political Apathy: Reviewing Colonial History
7. Origins of Political Apathy: Reviewing Colonial History
8. Origins of Political Apathy: Reviewing Colonial History
9. 中間まとめと試験
10. The Difficulties of Being Political
- 11.. The Difficulties of Being Political
12. The Difficulties of Being Political
13. Conclusion
14. Conclusion
15. 期末まとめと試験

8. 成績評価方法：

毎回の授業での訳文の口頭発表（40%）

筆記試験2回（60%）

9. 教科書および参考書：

教室でプリントを配布する。

10. 授業時間外学習：

毎回、3ページ分の訳文を準備し、授業での討論を踏まえて、自分の訳文を修正する。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

12. その他：その他人名や専門用語、民族名などについては、英語辞書だけでなく、各種事典を使って、最適の訳語を見つける癖をつけて欲しい。英語を「使って」専門を学ぶという態度を身につけましょう！

科目名：文化人類学基礎講読／ Cultural Anthropology (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

semester：4, 単位数：2

担当教員：リーペレスファビオ（助教）

講義コード：LB42206, 科目ナンバリング：LHM-CUA202J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：文化人類学基礎講読

2. Course Title (授業題目)：Cultural Anthropology (Introductory Reading)

3. 授業の目的と概要：

現代人類学で扱う親族、エスニシティや移動などの重要なテーマについて英文テキストを読むことで、英文読解力の向上と、人類学の理論と方法の初歩的理解を目指す。受講生は毎回6~7ページ程度予習して授業に臨み、各段落の要約を発表する。その上で、内容について討議する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

The Course will focus on key themes in contemporary Cultural Anthropology, such as kinship, ethnicity, and migration. The course will brush up on English reading ability, and learn theory and methods of Anthropology.

5. 学習の到達目標：

英文読解力および英語文献の検索力を養う。
人類学の理論と方法の基礎を学ぶ。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Brush up on english reading skills, and researching skills
Learn the basics of Anthropological theories and methods.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

以下のテーマをめぐる英文テキストを購読する。

文化とは Culture

家族・親族 Kinship and Family

結婚 Marriage

性 Sex and Gender

宗教 Religion

儀礼 Ritual

経済 Economy

エスニシティ Ethnicity

移民と移動 Immigrants and Migration

観光 Tourism

フィールドワークと民族誌 Fieldwork and ethnography

人類学と社会 Anthropology and Society

8. 成績評価方法：

英文要約の口頭は俵と授業での討論 (50%)

学期末のようやくノート提出 (50%)

9. 教科書および参考書：

授業中に指示する

10. 授業時間外学習：

毎週、6~7頁ほどの英文を読んで、要約ノートを準備する。授業後は、授業での討論を踏まえて、要約ノートを修正する。毎回、授業前に指定されたグループで集まり、学生同士で疑問点を整理しておく。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

科目名：文化人類学基礎演習／ Cultural Anthropology (Introductory Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

semester：3, 単位数：2

担当教員：越智 郁乃 (准教授)

講義コード：LB31403, 科目ナンバリング：LHM-CUA203J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：専門文献読解 1

2. Course Title (授業題目)：Cultural Anthropology (Introductory Seminar)

3. 授業の目的と概要：

複雑な社会をいきなり研究しようとしても、どこから始めたらいいのか途方に暮れるだろう。この授業では、文化人類学でながく培われてきた思考の道具立てとして、いくつかのテーマ (宗教、親族、ケア、国家、経済、芸術、など) を取り上げ、それらに関する基礎文献を講読することで、研究の手がかりと文化人類学の概括的な知識を得る。次に各テーマに関連した代表的な民族誌を読み解くことで、文化人類学の思考法と研究方法がいかなるものかを学ぶ。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

This course takes up major themes (religion, kinship, care, state, economy, art, etc.), explores basic literature regarding these themes, and help students obtain fundamental understanding of cultural anthropology. Students will also read major ethnographies relating to these themes and learn basic methods of anthropological thinking.

5. 学習の到達目標：

基礎文献の講読と討論を通して、文化人類学の主題と思考法について学ぶ。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

Achieve basic understanding of the themes and methods of cultural anthropology through reading basic literature and group discussion.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 自己の位置取り
3. 自然と知識
4. 技術と環境
5. 呪術と科学
6. 現実と異世界
7. モノと芸術
8. 贈り物と負債
9. 貨幣と信用
10. 国家とグローバリゼーション
11. 戦争と平和
12. 子どもと大人
13. 親族と名前
14. ケアと協働性
15. 市民社会と政治

8. 成績評価方法：

レポート [40%]、出席、授業時の口頭発表、議論参加 [60%]

9. 教科書および参考書：

松村圭一郎、中川理、石井美保、編 2019『文化人類学の思考法』世界思想社。

他の文献については授業中に指示する。

10. 授業時間外学習：

毎回の授業についての予習ノートの作成

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：文化人類学基礎演習／ Cultural Anthropology (Introductory Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

semester：4, 単位数：2

担当教員：川口 幸大 (准教授)

講義コード：LB41406, 科目ナンバリング：LHM-CUA203J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：文化人類学の視野と思考

2. Course Title (授業題目)：Cultural Anthropology(Advanced Seminar)I

3. 授業の目的と概要：

文化人類学についての理論および民族誌的研究を精査することで、主要な概念と関心の動向を検討する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

5. 学習の到達目標：

文化人類学の研究動向を体系的に理解し、自身の問題関心を展開させる。

最終的には、自分の研究主題についての文献リストと主要文献のレビューを作成する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 研究動向の整理と検討
3. 研究動向の整理と検討
4. 文献講読
5. 研究動向の整理と検討
6. 研究動向の整理と検討
7. 研究動向の整理と検討
8. 文献講読
9. 研究動向の整理と検討
10. 研究動向の整理と検討
11. 研究動向の整理と検討
12. 文献講読
13. 研究動向の整理と検討
14. 研究動向の整理と検討
15. 最終報告

8. 成績評価方法：

発表[40%]、出席[20%]、最終レポート[40%]

9. 教科書および参考書：

授業中に指示する。

10. 授業時間外学習：

毎回、課題に沿ったレジュメを作成する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

科目名：文化人類学各論／ Cultural Anthropology (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

semester：集中 (5), 単位数：2

担当教員：石田慎一郎 (非常勤講師)

講義コード：LB98831, 科目ナンバリング：LHM-CUA301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：法人類学

2. Course Title (授業題目)：Anthropology of Law

3. 授業の目的と概要：

法とは何か——人類学の視点ならびに東アフリカ農村の事例を中心に講義する。本講義では、ケニア中央高地イゲンベ地方農村の事例研究から出発し、世界各地の比較事例を用いて、法人類学の主要な論点を順に検討する。ここでは、オルタナティブ・ジャスティスとリーガル・ブルーリズムを対比するが、その両者を総合し、真に人間的な法とは何かを考える学問としての法人類学を目指す。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course investigates key issues and new directions of legal anthropology. Based on ethnographic materials and anthropological theories/methods for understanding different justice systems in Africa and beyond, students will develop critical knowledge of human laws/laws for the human-being in comparative perspectives.

5. 学習の到達目標：

- ・法人類学における主要な論点を理解する。
- ・民族誌事例の分析をより一般化した法人類学的議論に展開する。
- ・法人類学研究を通じて人類学全般に可能な比較分析の方法を学ぶ。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

1. To provide students with an overview of key theoretical issues in anthropology of law.
2. To help students connect ethnographic materials/case studies to generalized/theoretical discussions in anthropology of law
3. To help students become familiar with theoretical frameworks for comparative anthropology

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1 日目 待つことを知る正義

1. 人が人を裁くことの根源的困難に向き合う (イゲンベ農村における呪術師の仕事場から [映像視聴・事例研究])
2. 待つことを知る社会の正義 (アフリカ民族社会の4類型 [比較研究])
3. 個を覆い隠す社会 (イゲンベ農村の正義を支えるもの [事例研究])
4. 交渉を停止する (オルタナティブ・ジャスティスの人類学 [比較研究])

2 日目 他者を知る法の理論

5. 法を取り戻す (ターンプル「孤独なアフリカ人」と千葉正士の法主体論)
6. ある不完全な理論の新世代 (千葉法学の源流と展開)
7. アフリカ慣習法の柔軟性と確定性 (婚姻慣習法の発見とリストメントの使い方 [事例研究])
8. 個人を語る社会／社会を語る社会 (法の創造における「第三の法主体」の役割 [事例研究と比較研究])

3 日目 人を知る法の理論

9. 人と人との絆を律する法 (ウェーバー契約論と社会人類学 [理論研究])
10. 法を呼び込む (アフリカ婚姻慣習法をめぐる形式主義と反形式主義 [事例研究])
11. 苦悩する当事者と裁判官 (リーガル・ブルーリズムの入口と出口 [比較研究])

4 日目 法を知る人類学

12. 法をめぐる二つのパラドクス (応答的法とは何か [理論研究])
13. 法的人間 (真の法人類学への道程 [これまでの議論をふまえた総説])
14. 法と政治 (グラックマンを読み直す [不朽の民族誌との新たな出会い])
15. 総括

8. 成績評価方法：

リアクションペーパー (各日の講義最後の 30 分間で、その日に学んだことや気づいたことを A4 一枚にまとめ、提出してください) [40%]、授業参加 (積極的な授業参加を高く評価します。授業に先立って、教科書中の事例研究を中心とする 2 章、4 章、6 章 (のいずれか、あるいは可能であれば全て) について読んでおくことが望ましい。事前に熟読した受講生には該当部分についてミニプレゼンテーション (形式自由) の機会を提供するので予め準備しておくこと) [30%]、書評 (教科書のいずれかの章もしくは授業内で紹介する文献を熟読し、書評レポートを提出してください。A4 二枚～三枚) [30%]

9. 教科書および参考書：

教科書：

石田慎一郎『人を知る法、待つことを知る正義—東アフリカ農村からの法人類学』勁草書房、2019 年

参考書：

アラン・シュピオ『法的人間—法の人類学的機能』勁草書房、2018年

千葉正士『法社会学—課題を追う』成文堂、1988年

フィリップ・ノネ／フィリップ・セルズニック『法と社会の変動理論』岩波書店、1981年

長谷川晃編『法のクレオール序説—異法融合の秩序学』北海道大学出版会、2012年

10. 授業時間外学習：

教科書・参考書の予習と、書評の執筆

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：講義予定は諸般の事情により変更することもあります。

科目名：文化人類学各論／ Cultural Anthropology (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

semester：集中 (5), 単位数：2

担当教員：嶺崎寛子 (非常勤講師)

講義コード：LB98832, 科目ナンバリング：LHM-CUA301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：中東イスラーム人類学

2. Course Title (授業題目)：Anthropology of Islam and the Middle East

3. 授業の目的と概要：

文化人類学およびジェンダー学のアプローチを利用して、中東に住むムスリム (イスラーム教徒) の社会と文化および、パキスタンから先進国への移民の文化とアイデンティティを動的に把握する方法を検討します。本科目では事例として、エジプトおよび、英領インドで興ったスンナ派系の少数派、アフマディーヤ教団を主に取り上げます。ファトワーというイスラーム法学の運用にあたる法的言説をも扱うため、文献資料も講義担当者は使いますが、もともと文化人類学はフィールドワークを重視する学問です。人類学は調査地での人々との出会いに重点を置くことから、大衆の視線を意識した学問であるという自負があります。しかし、「百聞は一見にしかず」とは言え、調査地で見たこと、聞いたことを全て記述すれば「活きたイスラーム」の理解につながる訳ではありません。中東やイスラームを扱った民族誌の考察を通じ、異文化理解の面白さや難しさを学びます。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course surveys cultural anthropology and gender studies for studying Muslim societies and cultures in the Middle East and Muslim migrants from Pakistan to developed countries. The case studies we look at are mainly from Egypt and Ahmadiyya. Our goal is to examine the strengths and weaknesses of anthropological approaches in studying everyday lives of Muslims around the globe.

5. 学習の到達目標：

- ・中東諸国の文化と社会の主な特徴を把握する。
- ・中東地域への文化人類学的なアプローチの基本を理解し、問題点を検討する。
- ・アフマディーヤ教団を別の参照軸として、中東と先進国で移民として生きるムスリムとを比較する方法論を検討する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

1. To gain an overview of the main characteristics of cultures and societies in the Middle East.
2. To discuss the strengths and weaknesses of social anthropological approaches to the Middle East.
3. To become familiar with theoretical frameworks for comparing and contrasting Muslim societies from different parts of the world.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1 日目

- 1：中東・イスラームへの文化人類学的アプローチと先行研究
- 2：ジェンダー・オリエンタリズム 1
- 3：ジェンダー・オリエンタリズム 2
- 4：中東における開発とジェンダー

2 日目

- 5：イスラーム世界の多様性
- 6：イスラーム法学の系譜
- 7：スンナ派とシーア派、および「ムスリム」の境界線
- 8：身分法から読み解く国家とイスラームの関係

3 日目

- 9：多元的法体制
- 10：ジェンダーとイスラームの交差点—イスラーム電話を事例に 1
- 11：ジェンダーとイスラームの交差点—イスラーム電話を事例に 2

4 日目

- 12：多民族・多言語国家としてのパキスタンとアフマディーヤ
- 13：移民経験とアフマディーヤ・アイデンティティ
- 14：国際移動とジェンダー
- 15：総括

8. 成績評価方法：

リアクションペーパー (講義が終わる 30 分前に、その日に学んだことや気づいたことを A4 一枚にまとめ、提出してください。)[40%]、レポート (講義終了後に、講義に関連した問を各自で立てて文献を収集し、その間に答える形でレポートを提出してください。赤を入れてお返しします。)[60%]

9. 教科書および参考書：

教室で指示する。

10. 授業時間外学習：

授業の復習と、レポート執筆。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：やる気と好奇心のある方の受講を歓迎します。中東の人類学に関する授業ですが、人類学以外のアプローチで中東を研究する学生、中東をフィールドとしない文化人類学を専攻する学生を歓迎します。講義予定は受講生のニーズや諸般の事情により変更することもあります。

科目名：文化人類学各論／ Cultural Anthropology (Special Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 3講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：ボレー・ペンメレン・セバスチャン (非常勤講師)

講義コード：LB65305, 科目ナンバリング：LHM-CUA301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：災害人類学

2. Course Title (授業題目) : Anthropology of Disaster

3. 授業の目的と概要：

文化人類学における 21 世紀の幕開けは、ますます増え広がる「災害」と呼ばれる現象によって特徴付けられる。Disaster という言葉は、自然災害（地震、ハリケーン、津波、洪水、火山噴火）、人為的事故（戦争、テロ、飛行機の墜落、列車の脱線事故、原子力災害、自動車事故）、環境と健康危機（飢饉、疾病、汚染、熱波）など様々な現象を含んでいる。災害という概念と発展とを踏まえ、本講義では、災害の種類、リスク、脆弱性、レジリエンス、連帯、トラウマ、メモリといった災害の人類学に関する共通の問題とテーマのいくつかを紹介する。これらの概念を用いて、本講義では災害を理解し対処する方法について災害人類学者が貢献する方法の一部を提示することを試みる。そうすることで、災害にかんする自分自身の理解を深めるとともに、人類学的知識を応用することに関心を持つことを、本講義を通じて提供することを願う。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

Anthropology's opening of the twenty-first century has been marked by a growing field surrounding the phenomena referred to as "disasters". The word disaster brings to mind natural hazards (earthquakes, hurricane, tsunami, flood, volcanic eruptions), so called man-made accidents (plane crashes, train derailments, nuclear accidents, car accidents) as well as epidemics, famines, wars, genocides and more recently terrorists attacks. Reflecting on its legitimacy and development, this course will provide an introduction to some of the common issues and themes concerned by the anthropology of disasters: Nature-culture, community, vulnerability, resilience, solidarity, social justice, politics of death, collective memory and representations. Drawing from these discussions, this course hopes to draw some of the ways in which disaster anthropologists may contribute to the ways in which disasters are understood and dealt with. We hope that this course will provide students with the necessary tools to develop their own understanding as well as an interest in applying anthropological knowledge in the contexts of disasters.

5. 学習の到達目標：

1. 災害問題について理解を深める。
2. 災害にかかわるさまざまな実践を知り、それを文化人類学の視点から批判的に捉える。
3. 受講生一人ひとりが災害問題に関してできることを具体的に考える。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

1. Understanding disaster issues
2. Learn and Critically assess the ideas and practices related to disaster from the point of view of anthropology
3. Think practically about one can contribute to disaster activities.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- I. コースのイントロダクション
- II. 現代世界における災害
- III. 人類学の視点から見た災害災害
- IV. リスクと脆弱性について
- V. 減災におけるレジリエンス
- VI. 気候変動、適応、脆弱性
- VII. 災害時の社会的連絡
- VIII. 災害コミュニティの移動と移動
- IX. 映画スクリーン 1: Fighting for Nothing to Happen
- X. 災害「想像の共同体」
- XI. 犠牲者、追悼、メモリアル宗教と災害
- XII. 宗教と災害
- XIII. 映画スクリーン 2: 東日本大震災と仏教
- XIV. 災害ツーリズム、記憶、語り部
- XV. 将来の災害文化人類学

8. 成績評価方法：出席、コメントとワークショップのレポートを総合して評価する。

9. 教科書および参考書：教科書はなし。読書リスト 研究室で適宜指示する。

10. 授業時間外学習：

読書（論文とチャプター）を通読した上でメモを書き、講義ノートを作成する。次の講義に参加する前に、個人で、または他の学生と一緒に協力して復習する。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：文化人類学演習／ Cultural Anthropology (Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：越智 郁乃 (准教授)

講義コード：LB52308, 科目ナンバリング：LHM-CUA302J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：比較文化研究法

2. Course Title (授業題目)：Methods of cross-cultural comparison

3. 授業の目的と概要：

文化人類学・民族学＝フィールドワークというイメージがあるかもしれないが、いきなり調査にでても何も見ることはできない。本授業では、民族誌を調査する。先人の研究の成果である民族誌を批判的に読み、比較分析することで、民族誌的な視点を獲得し、自らの営為に繋げる。具体的には、各自がテーマとリサーチクエスチョンを設定して関連する文献を収集・精読し、比較考察したレポートを作成する。毎回の授業においては、各人が発表資料を準備し、それぞれの研究の進捗状況を報告し、ディスカッションを積み重ねる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course explores ethnography and ethnographic methods through critically reading and comparative analysis of major and classic ethnographies. Students will select their own research themes and set up their own research questions, collect and analyze relevant literature, conduct cross-cultural analysis, and write up a report. Students will also make presentations and participate in discussion at each class.

5. 学習の到達目標：

- (1)民族誌資料検索の方法を身につける
- (2)いかに民族を記述するのかを比較分析する
- (3)成果をレポートにまとめることで、民族誌の文献研究の基礎を習得する

6. Learning Goals(学修の到達目標)

1. Learn how to search ethnographic materials
2. Learn how to describe ethnographically
3. Acquire the basic skills of ethnographic literature research through writing a report

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション：授業の進め方、現代の民族誌の展開
2. キーワードとテーマの模索：アイデンティティ、ジェンダー、セクシャリティ、人種、エスニシティ
3. キーワードとテーマの模索：学校、医療、介護、障害、生、社会運動
4. キーワードとテーマの絞り込み：ボランティア、メディア、ポピュラーカルチャー
5. 資料・情報探索：図書館、研究所所蔵文献を調べる
6. 資料・情報探索：Web で学術資料を調べる、新聞データベースを使う
7. テーマとリサーチクエスチョンの設定
8. 文献収集とリストの作成：学術論文、書籍
9. 文献収集とリストの作成：文献の分類、階層化
10. 文献レビューとディスカッション：テーマ毎の大きな議論の流れを掴む
11. 文献レビューとディスカッション：各文献を要約する
12. 文献レビューとディスカッション：比較考察する
13. レポートにまとめる①序論、本論、結論の構成検討
14. レポートにまとめる②序論、本論の検討
15. レポートにまとめる③本論、結論の検討

進捗状況によって授業の進行は変更することがある。

8. 成績評価方法：

レジュメと口頭発表、ディスカッション [50%] レポート [50%]

9. 教科書および参考書：

教科書：藤田結子・北村文編 2013 『現代エスノグラフィー 新しいフィールドワークの理論と実践』新曜社

参考書：沼崎一郎『はじめての研究レポート作成術』岩波ジュニア新書

その他参考文献は、教室で適宜指示する。

10. 授業時間外学習：

自身の研究に必要な文献の収集と読解、文献リストの作成、レポートの執筆。 Dropbox あるいは Google drive を利用し、文献リストやレポート下書きの添削を行う。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

12. その他：

科目名：文化人類学演習／ Cultural Anthropology (Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 3 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：沼崎 一郎（教授）

講義コード：LB62307, 科目ナンバリング：LHM-CUA302J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：文化人類学研究計画法

2. Course Title (授業題目) : Research Design in Cultural Anthropology

3. 授業の目的と概要：

主に卒業論文を念頭に置きながら、文化人類学的な研究を行う計画の立て方を学び、実際に研究トピックと研究テーマを選択して、それを実施するための具体的な研究計画を立案し、研究計画書を執筆する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

Develop a research proposal for graduation thesis. Learn how to choose a research topic and how to relate it to a larger anthropological theme.

5. 学習の到達目標：

- (1)文化人類学的な研究調査の方法論を学ぶ。
- (2)研究計画の立て方を体得する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

- (1)Learn anthropological methods
- (2)Learn how to write a research proposal

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入 授業方法の説明
2. 研究トピックの探索
3. 研究トピックの決定
4. 研究テーマの探索 1 ブレインストーミング
5. 研究テーマの探索 2 研究室の過去の卒業論文の探索
6. 研究テーマの探索 3 学術誌に掲載された論文の探索
7. 研究テーマの探索 4 人類学理論書の探索
8. 研究テーマの決定
9. 研究計画書の作成 1 問題設定の執筆とクラス討論
10. 研究計画書の作成 2 理論的背景の執筆とクラス討論
11. 研究計画書の作成 3 民族誌的背景の執筆とクラス討論
12. 研究計画書の作成 4 研究方法の執筆とクラス討論
13. 口頭発表 1 パワーポイントの作成
14. 口頭発表 2 パワーポイントを用いた発表練習 (前半)
15. 口頭発表 3 パワーポイントを用いた発表練習 (後半)

なお、受講生の進捗状況によって授業の予定と内容は変更することがある。

8. 成績評価方法：

出席と授業参加 [25%]

レジュメと口頭発表 [25%]

研究計画書 [50%]

9. 教科書および参考書：

教科書・参考書は、授業中に適宜指示する。

10. 授業時間外学習：

文献の収集と文献目録の作成、研究計画書の執筆、口頭発表用パワーポイントの作成。

Dropbox を利用し、文献目録、研究計画書の下書、パワーポイントの添削を行う。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：3 回以上の無断欠席は履修放棄と見なす。

授業内容および進度は、受講生の研究状況に応じて変更する場合があります。

科目名：文化人類学演習／ Cultural Anthropology (Seminar)

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：沼崎 一郎（教授）

講義コード：LB64213, 科目ナンバリング：LHM-CUA302J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：英語古典原書講読

2. Course Title (授業題目)：Classics in Cultural Anthropology

3. 授業の目的と概要：

文化人類学の古典であるフランツ・ボアズ『未開人の心性』改訂版（1938）の原書を精読し、学術的に正確な訳文を作成するという作業を通して、文化人類学における英語古典の精密な訳読の技法を習得する。

今セメスターは、第6章から第8章までを訳出する。底本には、メルヴィル・ハースコヴィッツの序文のある Free Press 版（1965）を用いる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

Read and translate selected chapters from Franz Boas, *The Mind of Primitive Man* (1938) and learn the academic way of understanding the classics.

This semester, we will read and translate chapters 6 through 8 using the 1965 version of the text.

5. 学習の到達目標：

- (1) 学術的な英文の正確な訳読力を身に付ける。
- (2) 文化人類学の古典の息吹に触れる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

1. Acquire academic translation skill.
2. Appreciate a classic in anthropological literature.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画

第1回：導入、授業法式の説明

第2回：テキスト訳出 P.137-138

第3回：テキスト訳出 P.139-140

第4回：テキスト訳出 P.141-142

第5回：テキスト訳出 P.143-144

第6回：テキスト訳出 P.145-146

第7回：テキスト訳出 P.147-148

第8回：テキスト訳出 P.149-150

第9回：テキスト訳出 P.152-153

第10回：テキスト訳出 P.154-155

第11回：テキスト訳出 P.156-157

第12回：テキスト訳出 P.158-159

第13回：テキスト訳出 P.160-161

第14回：訳稿検討 P.137-148

第15回：訳稿検討 P.149-161

定期試験は実施しない。

8. 成績評価方法：

下訳の作成と授業時の訳文の修正作業への参加（50%）、訳注の作成（50%）による。

9. 教科書および参考書：

Franz Boas, *The Mind of Primitive Man*, Revised Edition, with a new foreword by Melville J. Herskovits. New York: Free Press, 1965.

10. 授業時間外学習：

毎週、2頁ほどの英文の下訳を作成する。

授業での議論に基づいて、下訳を修正する。

訳注作成のための資料収集と分析を行う。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：Prepare translations for 2 pages of the text each week.

Participate in classroom discussion on translations.

Collect and analyze materials for creating footnotes to translations.

科目名：文化人類学実習／ Cultural Anthropology (Field Work Methodology)

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時. 前期 水曜日 4 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：川口 幸大, 越智 郁乃 (准教授)

講義コード：LB53313, 科目ナンバリング：LHM-CUA303J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：フィールドワーク実習

2. Course Title (授業題目)：Fieldwork

3. 授業の目的と概要：

現地調査とそれに基づく民族誌の記述は、文化人類学の最も基本的な研究方法である。この授業では、調査の目的の設定や組み立て方を含めた様々な技術・方法を学習し、さらに実地に試行することを通して体験的に習得することを目標とする。前期は主として調査方法と資料の種類や性質を検討し、各自の関心に即した調査計画の立案をはかる。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

5. 学習の到達目標：

文化人類学のフィールドワークの方法と民族誌の記述の仕方を学ぶ。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

1. イントロダクション
2. 問題領域の確認
3. 過去の実習テーマの検討
4. 調査対象の検討
5. 調査対象の決定
6. フィールドワークの報告と討論①
7. フィールドワークの報告と討論②
8. フィールドワークの報告と討論③
9. フィールドワークの報告と討論④
10. フィールドワークの報告と討論⑤
11. フィールドワークの報告と討論⑥
12. フィールドワークの報告と討論⑦
13. フィールドワークの成果発表①
14. フィールドワークの成果発表②
15. フィールドワークの成果発表③

8. 成績評価方法：

出席[30%]、平常点[40%]、レポート[30%]

9. 教科書および参考書：

教室で指示する

10. 授業時間外学習：

フィールドワークの遂行とフィールドノートの作成

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：文化人類学実習／ Cultural Anthropology (Field Work Methodology)

曜日・講時：後期 水曜日 3 講時, 後期 水曜日 4 講時

Semester: 6, 単位数: 2

担当教員：川口 幸大, 越智 郁乃 (准教授)

講義コード：LB63311, 科目ナンバリング：LHM-CUA303J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：フィールドワーク実習

2. Course Title (授業題目)：Fieldwork

3. 授業の目的と概要：

現地調査とそれに基づく民族誌の記述は、文化人類学の最も基本的な研究方法である。この授業では、調査の目的の設定や組み立て方を含めた様々な技術・方法を学習し、さらに実地に試行することを通して体験的に習得することを目標とする。後期は各自の立案した調査計画に基づいて調査を行い、その途中経過を授業で討議しながら、それぞれの調査を完結させ、その結果をまとめる。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

5. 学習の到達目標：

文化人類学によるフィールドワークを行い、報告書を作成する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. テーマと実施計画の再確認
2. フィールドワークの報告と討論①
3. フィールドワークの報告と討論②
4. フィールドワークの報告と討論③
5. フィールドワークの報告と討論④
6. フィールドワークの報告と討論⑤
7. フィールドワークの報告と討論⑥
8. 理論の検討①
9. 理論の検討②
10. 理論の検討③
11. 報告書の作成に関する説明①
12. 報告書の作成に関する説明②
13. 受講者の報告書の検討①
14. 受講者の報告書の検討②
15. 受講者の報告書の検討③

8. 成績評価方法：

出席と平常点 [50%]

報告書 [50%]

9. 教科書および参考書：

教室で指示する

10. 授業時間外学習：

フィールドワークの遂行とフィールドノートおよび実習報告書の作成

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

